

中国における認知症高齢者ケアにかかわる人材育成に関する研究 ケア現場の人材育成を中心に

○ 東北福祉大学大学院 陳 麗娜 (008617)

〔キーワード〕 認知症高齢者ケア、介護職員、人材育成

1. 研究目的

現在中国では、1979年から始まった「一人っ子政策」等の家族計画の政策強化等による出生率の低下と、経済・社会発展や科学技術の進歩、医療衛生水準等の改善に伴う平均寿命の向上により、急速な高齢化が進んできている。しかし、中国の高齢者人口増加問題の深刻化と同時に、高齢者対策制度と高齢者サービスの発展が非常に遅れており、混乱している。また、一人っ子政策を続けていくうちに、介護の担い手が少なくなる。特に、認知症については、症状は様々であり、自立した生活を営むことは難しく、BPSD表れた時、家族も周囲も大変苦しむこととなる。多くの家族にとって、ほとんどの場合、仕方なく認知症の親を施設に入所させているのが現状である。さらに、専門医も不足しており、国民の認知症についての知識が非常に乏しい。専門職も自身の知識不足と資格取得のための学習時間の不足などにより、十分な指導を受けられず適切なケアも提供できない。今後も超高齢時代の到来に備えた介護支援サービスの拡充とともに、認知症ケアの質の向上と標準化が求められている。

本研究は、中国における認知症高齢者の介護の質の向上の課題となっている。中国 A 市の高齢者施設に勤務している介護職員の認知症に関する知識量、実際に介護職員が認知症高齢者に提供しているケアと研修意欲を分析し、諸問題を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

本研究では、中国 A 市の高齢者施設の職員を対象に、介護職員の専門知識の程度と実際に提供しているケア内容および職員の待遇、研修参加意欲等についてアンケート調査を行った。

アンケートは、4部構成である。第一部は介護職員の基本属性に関する調査である。第二部は、認知症の専門知識に関する調査項目である。第三部では、中国の高齢者施設における介護職員が実際に提供しているケアについて、寝たきり認知症高齢者と非寝たきり認知症高齢者を分け、各13項目の質問を行った。第四部は、介護職員の待遇およびその他（月給、満足度、勤務時間、転職、研修）について、全部11項目について調査した。本研究では、認知症に関する知識の量と、実際に行っているケアと研修意欲について分析した。

3. 倫理的配慮

倫理的な配慮としては、施設職員の部分は中国 A 市の福祉系大学の教員を通じて、高齢者施設の施設長に依頼し、同意を得た。調査は無記名で行った。調査の回答を持って、同意と見なした。

4. 研究結果

調査表は180人を配布し、回収率は100%である。有効回答は141人、実際有効率は78%であった。職員の年齢は、40代50代の職員が80.0%であった。学歴の割合は中学卒62人(51.24%)、半数を超えた。介護リーダーは16人で、有資格者は62.5%であった。

認知症の専門知識に関する調査項目について、 χ^2 検定の結果では、資格あり職員と資格なし職員は、差が認められなかった。つまり、資格にかかわらず、認知症に関する正確な専門知識量には差がなかった。寝たきり認知症高齢者ケアの項目について、 χ^2 検定の結果では、実際に提供しているケアについて、資格あり職員と資格なし職員には、差がなかった。

認知症に関する知識の平均得点について、介護リーダーは8点満点中5.39点、一般職員は3.79点であり、5%水準で介護リーダーのほうが有意に高いという結果であった。

研修経験の有無と研修意欲については、介護リーダーは両者とも100%であった。一般職員の研修意欲について、研修意欲が高い職員の内、95.2%は研修参加歴があり、4.8%は研修参加歴がなかった。研修意欲が低い職員の内、38.9%は研修参加歴があり、61.1%は研修参加歴がなく、参加意欲と参加歴には有意な関連が認められた。

5. 考察

認知症の専門知識量と実際に提供しているケアについて、資格あり職員と資格なし職員の差はなかった。この資格(養老護理員)は国家職業基準として制定されたが、専門的内容は不十分である。また、資格を持っている本人であっても、資格の詳しい内容については、認識されておらず、各地方で実施の状況も大きな差がある。資格(養老護理員)の内容や仕組みについては、再検討の必要がある。認知症高齢者人口の増加とともに、特に認知症に関する知識では、重視すべきであるだろう。正しい病状を知らなければ、認知症高齢者に適切なケアを提供することはできない。不適切なケアによって、逆に症状が悪化しないように、さらに、不適切なケアによって、回復ができないほど、悪化した状況におちいっていくことを防ぐためにも、介護職員に高齢者の医学、認知症の病状、認知症の病状に応じた介護に関する理論的知識を習得させることに重点をおいた教育を行わなければならない。

職員の知識を向上させる研修について、介護リーダーは全員研修受講経験があり、研修意欲も知識量も高いことが明らかになった。一般職員全体の知識の量をあげるためには、資格を取るための学習過程とその内容を重視することが大切だと思われる。また、知識を向上させるための研修会と資格を取るための学習が結び付けば、資格を取る職員の知識量が向上することに効果があると考えられる。さらに、介護リーダーは、その役割を活用して、職員の全体の知識量を上げることも重要である。

一方、職能団体が行う全介護分野の研修会はほとんど、施設長などの管理職のためのものが多く、経営と管理などの内容に偏っている。このような職能団体が行う研修会、交流会は経営、管理に限るのではなく、施設間、地域間の介護や、人材育成などの内容に広がっていくことを期待したい。

今後、国の政策を期待しながら、介護施設とサービスを重視すると同時に、認知症介護職員の介護技術能力の向上にも力を入れる必要があり、これは、今後の中国の認知症ケアの質の向上にもつながるものと考えられる。